

令和3年度 第3回甲賀市図書館協議会会議録

1. 日 時：令和4年3月11日（金） 午後7時～午後8時30分

2. 場 所：甲南図書交流館 視聴覚ホール

3. 出席者：【委員】 大西 正泰 山添 智子 辻 聡 富山 由美子
地村 千里 松本 佐知子 山崎 喜代美 中村 ひろ子
山中 ルミ 竹村 吉史
【事務局】 田村次長 岡崎参事 宮木補佐 香取館長
篠原館長 片岡館長 今村館長 奥山館長
【傍聴者】 なし

4. 次 第：（1）会長あいさつ
（2）令和3年度統計中間報告について
（3）令和4年度実施事業計画について
（4）甲賀市子ども読書活動推進計画第3次計画の一部修正について
（5）副会長あいさつ

5. 内 容

（1）会長あいさつ

急に春めいたというか、桜の咲く季節になって心がウキウキするが、世の中はウクライナ・ロシアの戦争が始まってしまい、心が痛む。テレビを観ていてもわかるが、どちらの言い分もあり、フェイクニュースの出し合いのようになって、真実が何かわからない状態である。我々が気を付けなければならないのは、ひとつのニュースに一喜一憂したり、誰かを悪者だと決めつけたりすることではなく、こういう時にこそ歴史を学ばなくてはいけない、ということだと思う。そういう意味では、図書館でロシアやウクライナの歴史の本など借りて読んでみたいと思っている。みなさん、本当に世の中はフェイクニュースがいっぱいなので、ニュースひとつで事を判断しないように気を付けていただきたい、そして一日でも早く平和な日々が戻ることを祈りたいと思う。ということで、今日はよろしく、お願いしたい。

（2）令和3年度統計中間報告について

〔令和3年度統計中間報告について事務局から説明〕

【質疑・意見】 なし

（3）令和4年度実施事業計画について

〔令和4年度事業計画に基づき事務局から説明〕

【質疑・意見】

会 長：新規が何件か入っているが、継続事業で止めたものはあるのか。

事務局：移動図書館での利用が非常に少ない在所は、区長と協議して来年度は休止するところもある。毎年検討するが、なかなか事業のスクラップは難しい。参加していただいた方から来年も続けてほしいという声をいただくと、継続することが多くなっている。

会 長：レファレンスサービスのオンライン受付は具体的にはどうするのか。

事務局：図書館ホームページで受け付けして回答するという形になると思うが、具体的な内容については、他の自治体を調査してこれから詰めていく。

委 員：これは非常に面白いと思う。レファレンスの利用が課題になっていたが、使いづらいと普及しないと思うので、詳細が決まれば教えてほしい。

事務局：報告する。

委 員：図書館ボランティアは、具体的にはどんな仕事をしているのか。

事務局：募集チラシを図書館のカウンター等に設置しているが、来年度は、本の修理・装備、館内の装飾、館内外の清掃を募集している。一番多いのが本の修理・装備のボランティアで、非常に助けてもらっている。

委 員：年齢的にはどうか。若い方もいるのか。

事務局：高校生や20代の方の参加もあったが、年配の方が多い。

会 長：各図書館で活動しているのか。

事務局：応募時にどの館で活動したいかを聞き、各図書館で活動してもらっている。

委 員：人数的には増えているのか。

事務局：コロナ禍により乳幼児おはなし会を休止している関係で、登録してもらっていても実際は活動できていないことはあるが、各館数名は増えている。

委 員：蔵書点検は1週間で全部できるのか。

事務局：蔵書点検の期間は、他の館からも応援に来てもらっている。

委 員：大型絵本は甲南にたくさんあるが、他の館では借りられないのか。

事務局：リストを作成して、どの館にあるのかわかるようにしている。市内の物流便が週2回あるため、予約してもらえれば、届き次第に連絡する。

委 員：甲賀図書情報館に寄付された方はどんな方か。

事務局：以前に甲賀図書情報館に勤めていた方の関係の方から、甲賀の児童書購入にということで350万円を寄付いただき、大型絵本、名作絵本、移動図書館車の本等を購入した。甲賀の移動図書館は土山と甲南とも共有しているため、古い本が一新されて、甲賀だけでなく他の地域の子供たちにも喜んでもらっている。

委 員：高齢者向けの紙芝居は増えているのか。

事務局：毎週選書をしており、最近の出版はあまりないが、今まで出版されたものについては、高齢者福祉施設に行かれるボランティアも多いため、使ってもらえるように各館で購入している。

委 員：本の福袋を借りに言ったら最後の一つだった。意外なテーマだったが、残り福と思って借りたら、自分では手に取らない本で、読んでみたらよかった。来年は早く行こうと思う。

事務局：ありがとうございます。非常に励みになるので、他の職員にも伝える。

会 長：好評ですね。私が行った時にはもうなかった。

事務局：読み聞かせのボランティアをしている方からも、自分では選ばない本だが、とてもよかったため、学校のおはなし会で使用したという話を聞いた。色々な事業がスクラップの対象になるが、図書館らしい事業であり、こういう声があるので来年度も継続したい。

委 員：どれくらい福袋を用意するのか。

事務局：職員数が違うので館により違うが、総数でいえば100個以上作り、大人用、子ども用を用意している。

委 員：移動図書館は子どもたちに好評である。コロナ禍で自席遊びが多くなっているが、例えば折り紙や工作を集中して作ることが、自分の居場所作りや自信につながっている。お互いに、興味のある本の紹介もしあっている。喜ばしいこと。

委 員：本の購入希望が重なった場合はどうしているのか。

事務局：人気のある作家の本は希望が重なることが多いため、予約の数や、前回に著作を購入した館等、バランスを確認しながら毎週全館で発注調整をしている。

委 員：どの館がどの分野を集めるというのはあるのか。

事務局：水口は城・東海道、土山は茶、甲賀は薬等、それぞれの館でテーマが決まっており、重点的にその館で購入している。ただ、その館にしか行けない方もいるため、あまり偏りすぎないように配慮している。

(4) 甲賀市子ども読書活動推進計画第3次計画の一部修正について

〔甲賀市の小中学校における学校図書館の現状について学校教育課から説明〕

〔文部科学省第6次学校図書館図書整備等5か年計画について図書館から説明〕

〔甲賀市子ども読書活動推進計画第3次計画の一部修正案について図書館から説明〕

【質疑・意見】

副会長：昨年度、希望ヶ丘小学校の学校図書館を見学した際に、図書館司書のレベルの高さを感じた。学校図書館のリニューアル事業は、あと5年で終わるということだったが、5年経てば、最初にリニューアルしたところが古くなってきている。費用もかかるが、継続していくことが大切である。また、学校司書と学校が連携しやすい環境づくりも必要だと思う。

先生は、図書館のことだけでなく、子どもや、子どもの家庭のことなどもあり大変忙しい。このため、学校図書館のことは学校司書に任せるぐらいであってもよいと思う。そのためにも学校司書の補充が必要ではないか。

事務局：学校図書館のリニューアル事業については、ガイドラインができる前は、県の支援事業であり、県立図書館を中心にリニューアルをしていただいた。その後、県は「やってみようリニューアル」というガイドラインを作成された。このガイドラインは学校が主体となって学校図書館をリニューアルし、県立図書館からは支援員を派遣していただくもの。今、言っていたように、新しい本を入れても、いつかは古くなる。図書館も同じで、本の並びは変わらないが、その時の子どもの状態や、学習の活用に合わせてレイアウトが必要になる。学校図書館

リニューアルの費用としては、本の並びを見やすくするための、本と本の間に入れる黄色い書架表示用のキットだけである。リニューアル作業については、学校司書と学校職員、支援員の人的な力で行っている。今後、学校のなかで「やってみようリニューアル」ガイドラインを活用し、力をつけ、継続して行くことが大切と考えている。

学校司書の増員については、国の目標では1.3校に1名となっているが、これをやろうとするとなかなか厳しい。学校司書は現在6名で、その前は5名だった。学校司書のニーズも増えてきているため、現在、募集しており次年度は7名を予定している。

副会長：学校によって特色はあるのか。例えば、甲賀地域の学校図書館では、薬草や丸薬などの関係の本が多いなどの特色はあるのか。学校間の交流会のようなものがあってもいいと思う。

また、大規模校と小規模校とでは、図書館サービスに違いはあるのか。

事務局：特色については、それぞれの学校に教育目標があり、それに合わせた、資料の準備や、平行読書を行うための配架や選書を行っている。また、それぞれの地域に、それぞれの特色があるため、総合的な学習や生活科について各学校でカリキュラムを立て、それに合わせた取り組みも行っている。市の教育方針である「たくましい心身と郷土への誇りを持ち、未来を切り拓く人を育てる」の取り組みとして、各町ブロックの交流も必要と思っている。市内ではタブレットを使って授業交流をしているところもある。ある学校で発表したことが、他の学校で生かされている。市内のそれぞれの地域の学習したことが広がることは素敵なことなので、実現できればと考えている。

大規模校と小規模校の違いはないと考えている。小さい学校だから本が少ないということはない。学校司書も全ての学校を巡回している。少人数の学級でも学んでいる内容や単元も同じなので、平行読書や単元に必要な本については、公立図書館から借りて活用していただいている。その本を一人で見ているか、複数の人が見ているのかという格差はあるかもしれないが、学習格差はないと考えている。

委員：(11)の保護者への読書活動の推進の啓発は、何か具体的なものがあるか。

事務局：以前には学校の現場などで、子ども読書の大切さや読み聞かせの注意点などをお話しする機会があったが、本年度や前年度はコロナ禍もあり実施できていない。

事務局：学校によって取り組みに違いはあるが、うちの子どもが通っている学校ではPTAが購入した本が順に回ってきて、親子で読んで感想文を書いたりするようになっている。子どもに読書を薦めている教師でありながら、自分自身が意外と読んでなかったりすることもあり、そういう意味でいい機会になっている。

委員：滋賀県でも「おうちで読書」を推奨しているが、実際、家庭の中で児童と保護者で本についてのコミュニケーションとかはできているのか。

事務局：学校によっては学校図書館だよりを持って帰るところもあり、また図書館から

渡している読書通帳の記録を見ていただくことで、こういう本を読めるのかという声かけもしてもらっていると思う。読書通帳の記録50冊で免許皆伝証をお渡ししているが、これを励みに本を読んでいるという子もあり、親子間のコミュニケーションのきっかけにしてもらえればと思っている。

委員：私はボランティアで保育園や子育て支援センターなどに読み聞かせに行くが、子どもたちはとても喜んでくれる。子どもたちが成長する中で、本を読んで力をつけてほしいという思いがある。本を読みなさいというよりも、子どもからすれば読んでもらうことで本を好きになるということもあり、子どもたちの読書意欲を高められるよう継続して取り組みたいと思う。

委員：本バスの取り組みは書かないのか。

事務局：地域における読書活動の推進のところで移動図書館車の活動を書いている。

会長：今回の修正案は、より項目も増え詳細に書かれており推進する計画としてのレベルは上がっているが、項目によっては主語がなく誰がやるのかわからないものがある。また、「学校において、委員会を組織する」となっているが、委員会を組織して何をやるのかわからない。せつかく書くなら主体とか目安を書かないと後から検証もできない。学校司書の役割も今の人数で本当にできるのか、少ない人数で何もできなくなる恐れはないのか。そういうところを具体的に書いて、前に進めていただきたい。

事務局：以前のこの会議でも具体的な指標をというご指摘もあり、今会長からも意見をいただいた。もう少し踏み込んで主体とか目標値とかも明示させていただく必要があると思うし、国の学校図書館図書整備等5か年計画が第6次に移行しており、その辺りとの整合も図りながら、見直したものを次の会議でもご相談申し上げたい。

会長：子どもの読書活動推進はとても大切なことなので、より具体的に前に進める計画としてほしい。

委員：学校現場にいた時の話だが、県の指定校になっていた時があり、その時は学校司書の時間数も多く、学校司書との連携も図れて充実していた。次年度になるとぐっと体制は縮小されたが、それでも指定校の2年間で培われたものがあり、その時の経験を生かした教員が主力となってある程度活動することができた。小学校では、毎時間教員が授業に出ているため、学校司書との連携が取れないような状況もありが、学校司書と現場の教員との連携は非常に重要であり、その辺の工夫ができるといいのかもしれない。先ほど話題に上った委員会のようなものを組織するのもいいのだが、学校司書と現場の教員の連携が確実に行われることがより大切だと思う。

会長：今回みなさんからいろいろご意見もいただいたので、ぜひとも計画の中に盛り込んでほしい。

委員：タブレットの購入は補助金でできるのか。

事務局：タブレットは既に1人に1台行きわたっている。

委員：学校図書館の整備費は全部国庫補助金か。

事務局：交付金だと思う。

(5) 職務代理あいさつ

会 長：それでは、協議会はこれで終了としたい。最後にあいさつをお願いします。

副会長：どうもありがとうございました。

毎回、みなさまが熱い思いをお持ちになって、自分では考えられないような意見を言っていていただき、ああ、こういう思いをみなさん持っていていただいているのだな、すごいな、といつも感動しながら帰っている。今日も、そう思いながら帰りたいと思う。